

<全体分析>

試験時間 120分

解答形式

I、II、IIIいずれも論述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

出題の特徴

Iは欧州の中世・近世史、IIは欧米の近世・近代・現代史、IIIは近代・現代のアジア史の枠組みが定番となっている。400字3問の出題も不動である。本年度も定石どおりの出題であった。

入試改革を踏まえた出題

IIでレンブラントの絵画が史料として提示された。絵画から時代を考察させる問題は過去に実績がない。新たな傾向として注目される。

その他トピックス

IIIは戦後史に関する出題実績は多いが、中華人民共和国史に絞った出題は今まで例がない。

なお、IIIは大学受験科完成シリーズ「世界史 論述」 23・24講(3)とズバリ的中した。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	論述	アヤ・ソフィアの歴史的变化	答案作成のポイントとして、ユスティニアヌスによる建立、聖像禁止令とその廃止、オスマン帝国の支配、トルコ共和国の成立への言及が挙げられる。2020年に世界遺産アヤ・ソフィアがイスラームのモスクに回帰したことが出題の背景にあると思われるが、設問の条件から考えるとそこまで記述する必要はないだろう。解答例には入れなかったが、13世紀のラテン帝国時代に一時カトリックの聖堂として使われていたことも指摘できよう。	やや難
II	論述	レンブラント時代とゲーテの時代	ゲーテの史料「詩と真実」(1811年初版出版)のうち、出題に使われたのは、大革命以前のフランス遊学時代を回顧した部分である。オランダは自立した市民団を担い手とした文化であったこと、ゲーテについては18世紀のドイツ社会を踏まえて「疾風怒濤」について指摘する。「疾風怒濤」を社会的コンテクストのなかで説明するのは、受験生にとっては難しい。	難
III	論述	文化大革命の経緯と「4つの近代化建設」の影響	「1980年代の中国に与えた影響」としては、1989年の天安門事件に言及することが必須であろう。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

3問とも史料問題の形式が定着しつつある。やはり日頃から史料問題に慣れておく必要はあるだろう。難問が出題されることも多いが、細かい知識に偏るのではなく基礎となる歴史理解の徹底につとめたい。文化史・社会史を含め基本となる通史はなるべく早く仕上げよう。その上で過去問研究を周到に行い、繰り返されるテーマに共通する事項・知識を確実なものとし、覚えるだけでなく、思考の材料として使えるようにしておきたい。